



八木 ひとみさん(インタビュアー)

2008年に山口朝日放送でアナウンサーとしてスタート。TBS「ニュースバード」や、「日経CNBC」を経て、2018年3月より、BSジャパン「日経モーニングプラス」のキャスターを務める。



取締役頭取 佐久間 英利

1976年当行入行。市場営業部長、経営企画部長を歴任し、2003年6月取締役就任、2009年3月取締役頭取に就任。

地域と歩む、確かな一歩

2017年度を振り返って

八木：頭取にとって、昨年度はどのような1年となりましたか。

頭取：昨年度は地域とともに持続的に成長していくため、着実に歩みを進めた年となりました。

法人部門では、事業承継やビジネスマッチングといったソリューション提案が着実に実を結んでおり、手数料収入も継続的に伸びています。

個人部門では、非対面チャネルの強化に力を入れました。ホームページ上でお客さまのニーズに沿ったポートフォリオを提案するロボ・アドバイザーがご利用いただけるようになったほか、API^{※1}を活用したサービスの提供を開始しています。

このほか、自治体が進める地方創生の施策を

積極的に支援しています。廃校となった小学校の跡地活用を促す長南町の事例では、県の空き公共施設活用事業と連携しながら企業誘致に成功し、地方創生の特徴的な取組事例として認定され、大臣表彰をいただきました。

これからも「地域の発展なくして自らの成長なし」という考えのもと、グループの力を結集して地域経済の活性化に貢献していく所存です。

八木：今年、新しい試みとして農業法人を設立されたと同じました。

頭取：千葉県は農業産出額全国第4位の農業県ですが、近年、農業の担い手不足や農家の高齢化による耕作放棄地の増加などが問題となっています。そこで、地域農業の発展と競争力向上に向けた新たな取組みとして、地域の中核企業等に出資を呼びかけ、今年3月に農業法人「株

株式会社フレッシュファームちば」を設立して農業経営に参画することとしました。

既に、千葉県市原市内で水稻栽培を始めています。近隣農家などから助言をいただきつつ、IoTなどの先進的な農業技術を取り入れながら法人経営による大規模化を図るほか、顧客ネットワークを活かした販路をしっかりと確保していくことで、生産性と収益性の高い農業経営を目指していきます。

八木：それは意義深い取組みですね。

2018年3月期の決算について詳しく教えてください。

頭取：連結経常利益は前期比8億円増加の784億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比10億円増加の537億円となりました。業績予想を上回る堅調な業績となり、純利益は連結・単体ともに過去3番目の業績を収めることができました。さらに、連結総自己資本比率は13.18%と引き続き高い健全性を維持しています。

貸出金は、中小企業向け貸出や住宅ローンなどお客様のニーズに積極的にお応えし、前期末比5,106億円増加の9兆8,160億円となりました。また、預金は、個人預金の増加などにより前期末比4,512億円増加し12兆170億円と、12兆円を突破しました。

※1 Application Programming Interface：外部から銀行システムに接続し、安全に情報を取得できるようにする仕組み。

加速するアライアンス戦略

八木：現在注力されているアライアンス戦略についてお伺いします。「千葉・武蔵野アライアンス」は提携開始から2年が経ちました。

頭取：2年目となった昨年度もスピード感をもって様々なことに取り組みました。金融商品仲介業務では、ちばぎん証券が埼玉県内に4店舗を構え、お客様のニーズにお応えしているほか、相続関



連業務での提携も実現しました。また、今年6月には浜松町エリアに両行の営業拠点を共同設置し、協業を進めています。

お客様のニーズに基づく相互紹介の仕組みも浸透したほか、千葉県・埼玉県それぞれの特産品の展示販売をつうじて両県の魅力をPRする物産市も共催しました。

これからも両県の有益な情報をお客さまに提供し、千葉県はもとより、首都圏全体でのシェア拡大を目指していきます。

八木：「TSUBASAアライアンス」も順調に連携が広がっているようですね。

頭取：「TSUBASAアライアンス」は、今年4月に北越銀行が加わり、7行が地域の枠を超えたパートナーシップをさらに進めています。

例えば、当行と第四銀行は、今年2月に事務部門の共同化について合意し、業務効率化やコスト削減を進めています。

また、今年4月には共同出資会社のT&Iイノベーションセンターとともに開発を進めていたAPIのプラットフォーム「TSUBASA FinTech共通基盤」が完成し、様々なフィンテックサービス^{※2}をお客さまに提供できるようになりました。

このほか、ちばぎんアセットマネジメントが組成した投資信託の東邦銀行・北洋銀行・第四銀行での販売、相続関連業務における提携など、

当初の想定以上の効果が出ています。

今後も、地銀の持続的成長の新たな姿をつくりあげていくために、両アライアンスを一層深化させていく考えです。

※2 金融 (Finance) と技術 (Technology) を組み合わせた造語で、ITを活用した革新的な金融サービスのこと。

ダイバーシティの浸透

八木：話題は変わりますが、ダイバーシティ、特に女性活躍の分野でよく千葉銀行の名前をお聞きます。

頭取：ダイバーシティの推進は重要な経営戦略であり、行内セミナーや自治体・他業態との勉強会などをつうじて職員の間でもダイバーシティに関する意識がかなり浸透してきていると思います。

2014年8月に掲げた女性管理職登用に関する数値目標に対しては、2018年7月2日時点で、女性リーダー職比率30.4%(目標：2020年度までに30%)、女性管理職比率12.7%(同20%)と順調に進捗しています。

さらに、働きやすい・働きがいのある職場環境の整備も進めています。今年に入り、柏市内と千葉市内に「ひまわり保育園」を開園しました。これにより当行の事業所内保育所は3か所となります。

こうした取組みが外部機関からも高い評価をい



ただき、今年3月、経済産業省・東京証券取引所より「なでしこ銘柄」に地方銀行として初めて選出していただきました。

千葉銀行が目指す姿

八木：今後の戦略を教えてください。

頭取：まずは、「お客さま第一主義」をベースとしたコンサルティング営業をさらに進めていきます。

お客さまのために、お客さまの課題解決に向けた提案を積極的に行っていくことが結果として当行の収益にも結び付いていくと考えています。

一方で、徹底したコストコントロールも行っています。現在の総人員4,300人を維持しつつ、成長分野への人員再配置を進めていく考えです。そのために、内部、融資、本部の3部門での抜本的な業務改革や、RPA^{※3}の導入などにより、中長期的に既存業務はより少ない人員で運営できる態勢を構築していきます。

ガバナンスの面では、各グループ会社を所管する責任者を配置する「グループチーフオフィサー制」を新たに導入し、グループ一体経営をさらに高度化させていきます。

グループ役職員が一致団結して、先進的なサービスで個人や中小企業をはじめとする地域のお客さまに最高の満足と感動を提供する「リテール・ベストバンク」グループを目指してまいります。

八木：今後の展開を楽しみにしています。これからも千葉県の発展に、ますます重要な役割を果たしてくださることを期待しています。

頭取：ありがとうございます。これからも地域の皆さまのご期待に応えられるよう、全力を尽くしてまいります。

※3 Robotic Process Automation：ロボット技術を活用したソフトウェアにより、定型業務を代替する業務自動化の仕組み。